

日本史B

【解答】

I

解答 1	解答 2	解答 3	解答 4
c	a	c	f
解答 5	解答 6	解答 7	解答 8
f	c	b	d

II

解答 A	解答 B	解答 C
日本書紀（日本紀）	万葉集	本能寺の変
解答 D	解答 E	解答 F
北条	人間宣言	公職追放
解答 G	解答 H	
米騒動	佐藤栄作	

III

問 1
太閤検地では、新たに統一した面積表示基準などに基づいて田畑・屋敷地の面積・等級を調査してその石高を定めた。これにより、全国の生産力が米で換算された石高制が確立し、大名は領地の石高に応じて軍事的な負担が義務づけられる体制ができあがった。
問 2
1955 年からの経済成長期には、鉄鋼、造船、自動車、電気機械、化学などの分野で技術革新や設備の更新が進んで鉱工業生産が急速に増大し、また石油化学や合成繊維などの新産業も発達したことから、第 1 次産業の比率が下がって産業構造は高度化した。

【学習アドバイス】

本学の入試は、例年、4教科の選択科目の中から2科目を選択して解答する形式を採り、試験時間は2科目合わせて100分となっている。各科目にかかる時間配分は、出題の分量にもよるが、1科目につき50分前後の時間を解答時間として考えるべきであろう。

2018年度の問題は、8世紀の奈良時代から戦後の高度経済成長・佐藤栄作内閣までが出題されており、古代・中世・近世・近代とバランスの取れた出題内容となっている。分野では政治史が多く、次いで外交史・文化史・社会経済史で構成されている。

本学をめざす受験生は、全時代の学習が必要不可欠となる。政治史中心の出題になっているが、政治史に偏ることなく、政治史と関連させて外交史・文化史・社会経済史の学習が大切になってくる。

出題形式は、選択式・記述式が併用されている。選択式は語句の空欄補充・年代配列、記述式は空欄補充・論述問題に採用されている。過去には、正誤判定問題や記述式による誤文訂正の出題もあったので注意しておきたい。なお問題のレベルは、高校の教科書・用語集の範囲内の標準的なものとなっている。特に選択形式の語句空欄補充問題では、選択肢に紛らわしいものが含まれているので、確実に正解を導き出せるよう、普段からの丁寧な学習が大切である。

日本史で高得点を取るためには、教科書・塾や予備校のテキスト・用語集を活用しながら、語句・人名などの用語に関して、「誰が」「いつ」「どこで」「何をしたか（なぜそうしたか）」を重点に置きながら進めていくとよい。そして最後に「どのような結果になったか」「どのような影響を与えたか」まで吸収することで、さらに知識・理解が深まっていくだろう。そのような学習は、慣れるまで最初は時間がかかるかもしれないが、「継続は力なり」というように、継続することで必ず学習のペース・効率が上がってくる。

吸収・理解した知識を使えるようにするために、大学入試用の問題集に積極的にトライして試みるのが大切である。実際の大学入試問題を解くことで、「出題の仕方がわかる」だけでなく、新たな事項も吸収できるようになる。また2018年度は、従来の年代配列問題が出題されなかった。入試は「何が出題されるかわからない」のが実情である。次年度以降、年代配列問題が復活する可能性は十分にあり得るため、準備は怠ることなくしておきたい。年代配列の出題形式は「知っている年代を基準に前後を特定する」「何世紀の前半・中頃・後半か」「何時代か」「為政者が誰の時か」を特定することで正解が導ける。このような学習は語句の空欄補充・正誤判定問題にも関連・直結しているので、問題集を利用してさらに実力を磨いていこう。具体的にはセンター試験対策の問題集を用いるのが最も効果的である。なぜならセンター試験の問題は、語句の空欄補充・年代配列が必ず出題されており、本学の選択式の問題に類似しているからである。問題演習を行った際、間違った箇所は必ず教科書・塾や予備校のテキスト・用語集等で再確認しておこう（なお一問一答形式の問題集は、年代配列問題・正誤判定問題にはあまり効果を期待できない）。

本学では、論述問題が2問出題されている。従来は100字程度であったが、2018年度は字数が「120字程度」へと変化した。他の問題の対応に時間がかかると、論述にあてる時間が少なくなってしまうので、注意が必要である。本学の論述問題は、「原因」「理由」ではなく「事項」や「変化」についての論述であるため、吸収した知識を「誰が」「いつ」「どこで」「何をしたか（なぜそうしたか）」「どのような結果になったか」「どのような影響を与えたか」という形にない述べるとよい。受験の基本である教科書には、必ずそのような流れが書かれているので、教科書の太字以外にも着目して学習を進めていこう。現実問題として論述問題は一朝一夕での対応は難しいので、早めの着手が望ましい。論述問題のトレーニングとして、高校や塾・予備校の先生に基本的なレベルの用語の課題を出してもらい、添削指導をしてもらうのが最も効果的な論述対策である。

本学では、記述式の空欄補充問題も出題されている。出題されている語句は、教科書の太字の箇所である。正確な漢字での解答を求められているので、普段の学習から手を動かして語句を覚えていこう。

以上のような対策を着実に積んでいけば、必ずや合格への道が開けるはずである。